

学校だより

横浜市立都岡小学校



# せんだん

12月号

令和5年11月30日

## 自分を幸せにする

校長 藤本 萌

職員玄関と児童昇降口前に、今、大輪の菊が何鉢も飾られています。両手の平を広げたほどの見事な咲きぶりで、学校に来られたお客さんが「立派な菊ですね。」と笑顔でほめてくださいます。これらは、個別支援学級の子も達が、川井地区にお住いの「菊名人」、草柳さんに教えていただきながら、半年かけ丹念に育て、咲かせたものです。校内だけでなく、「菊で笑顔を咲かせよう」というプロジェクトを計画し、先日、都岡駐在所、都岡地区センター、そして今宿西ケアプラザにも鉢を届け、しばらく飾らせていただくことになりました。町の方々が訪れた時に花を見ていただき笑顔になってもらいたい、という願いが込められています。届けに出かけた時、それぞれの施設の方々に「ありがとう」「きれいね」と喜んでもらえたと、嬉しそうに報告してくれました。さらに旭警察署長、吉田様からも感謝のお電話をいただき、子ども達はそれを聞くと目を輝かせて、「すごい！」と感激していました。



また、先月、ズーラシアへの全校遠足が雨天により延期となった日のこと。せっかくお弁当を作ってもらったのに…と、子どもたちは朝から落胆した表情でいっぱいでした。しかし6年生が「校内お弁当イベント」を計画してくれたのです。昼食時、6年生のリーダーたちが下級生を楽しませようと考えてくれた思い思いの場所に出かけて行き、非日常感を味わいながら、ふれあい班で仲良くお弁当を食べることができました。体育館、特別教室など、普段とは違う場所にシートを広げて「これはこれでワクワクする」「楽しい」という声も聞こえ、皆の嬉しそうな様子を見守る6年生の子どもたちの顔もまた、満足そうな笑顔でした。

このように、子ども達には、周りの人たちとのかかわりを大切に思う気持ちが育っています。

先日『ハーバードの人生を変える授業』(大和書房)という本を読んでいたところ、「他者の役に立てば立つほど、私たちの幸福感は大きくなっていきます。」という記述がありました。誰かの役に立つこと、人に喜んでもらえることをしたとき、「自分には価値がある」と思えるそうです。

人は、社会の中で人と関わりながら生活をしていきます。子どもたちが成長するうえで、誰かを笑顔にしたい、喜んでもらいたい、と純粋に願い行動することは、自身にとっても幸せな体験となって、人生を豊かにすることでしょう。学校は、子どもたちの願いや思いを大切にしながら、そのような体験をたくさんすることができるような場所でありたいと考えます。

師走、ご家庭も年末に向けてあわただしい日々をお過ごしだと思います。冬休みは子どもたちにお手伝いなど、「誰かの役に立つ」経験をたくさんさせてください。誰かに喜んでもらえることが、子どもたちにとって幸せな体験となります。

来年も笑顔があふれる学校でありますように。よいお年をお迎えください。